

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901597		
法人名	医療法人社団 春光台クリニック		
事業所名	春光台クリニック グループホーム 荻番館		
所在地	北海道旭川市春光台3条3丁目5番32号		
自己評価作成日	令和6年9月27日	評価結果市町村受理日	令和6年11月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvnoCd=0172901597-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気な職員が多く、理念にある「笑いある生活」を目標に、明るい雰囲気の中、入居者も笑顔で過ごしている。 ・職員と入居者が、「共に生活する人」のような信頼関係を築いており、入居者は自由に喜怒哀楽を表出している。 ・母体が医療機関の為、定期的な健康管理や、緊急時の相談、受診に繋げやすい。 ・近隣が公園や公民館(図書館)、保育園など地域資源に恵まれており、感染症予防中でも、散歩や図書館の利用が気軽にできる。 ・感染症予防中でも、対策しながら毎月行事を開催。季節感を感じられるようバスで紅葉や桜を見に行ったり、行事食は喜んでもらえるようなメニューを考え手作りしたり、職員による余興(職員一座がある)が好評。 ・職員同士のコミュニケーションも取れており、意見交換もしっかりできている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「春光台クリニック グループホーム」は、旭川市春光台の自然豊かな静かな住宅地に立地している平屋建て2ユニットの事業所である。近隣には公園や保育園、図書館やスーパーマーケットがあり、バス停にも近く生活環境に恵まれている。建物内は木の温もりを感じる明るく開放感のある造りで、壁などには利用者と一緒に制作した作品や季節感のある十五夜の装飾が施されている。職員の育成や研修に力を入れており、身体拘束に関する勉強会は3か月ごとに実施して日々のケアを振り返りながら不適切な対応や言葉遣いに関する学びも深めている。ケアマネジメントの面では、短期目標にそって毎月モニタリングを行い、「具体的な計画内容」項目を細かく検討し、現状に即した介護計画を作成している。運営推進会議は、家族に交代で参加を依頼し、毎回テーマにそった資料を事前に参加予定者に渡して多くの意見が得られるように工夫している。医療面では、母体医療機関の定期受診や専門医への通院を職員が支援し、利用者の健康状態を詳しく伝えて適切な医療支援につなげている。感染症に配慮しながら散歩やドライブなど外出する機会も積極的に設けている。管理者を中心に職員間で利用者一人ひとりの情報を共有し適切なケアを丁寧に行っており、利用者や家族の安心と信頼につながっているグループホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(巻番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い作成した理念は、いつでも見れる場所に掲示し、共有、確認できている。理念に基づき、ゆったりとした雰囲気の中、明るく笑顔の絶えない毎日を提供している。	理念の中に「家族や地域の方との ふれあいをもてること」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言が含まれている。玄関に掲示し、モニタリングや日々の業務の中で確認しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防中で積極的な交流が難しい為、散歩時に近隣の方とすれ違う際は、必ず挨拶をして、地域との繋がりを持つようになっている。公民館の図書館を利用しており、職員と顔なじみの関係である。	感染症の流行によりボランティアの方々との交流は無くなっているが、保育園の運動会を見学したり近隣の公園のお祭りに出かけている。利用者と一緒に図書館に行ったり、移動販売車で買い物することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の通信を、プライバシーに配慮したものに換え、母体のクリニックに掲示。グループホームでの生活や取り組みを写真と文章で紹介し、認知症を発症しても地域で暮らしている様子を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常は地域の方や家族に呼びかけ、会議を開催しているが、感染症予防の為、電話で家族や地域の方から意見を頂き、書面開催している。議事録は、会議参加者・家族に郵送し、施設玄関に掲示している。	年6回、事業所の活動報告やテーマを毎回設定して会議を開催している。参加予定者に事前にテーマにそった資料を渡し、会議の中で意見収集している。全家族に会議案内と議事録、資料を送り、交代で会議に参加してもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事や質問等は、都度担当者に連絡をとり、記録を残している。運営推進会議に市職員が参加し、議事録等必要書類を提出している。	市役所に、介護保険や介護報酬など制度に関することを電話やメールで確認している。研修の情報提供を受け、内容に応じて職員が受講している。現在は相談することは無いが、何かあればすぐに相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を定期的に行い、ベッド柵を設置する際の注意事項や声掛けの仕方(言葉による拘束)等、ケアの中で行われていないか再確認している。転倒リスクのある方が「起きたい」と思った時にすぐに対応できるよう、必要性を検討し家族に説明した上でセンサーを設置している。	マニュアルを整備し、身体拘束委員会に合わせて3か月ごとに勉強会を行い、禁止の対象となる具体的な行為も確認している。感染症対策のため玄関は施錠しているが、閉塞感を与えないように柔軟に対応している。身体拘束委員会の議事録に、検討内容をわかりやすく記入したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止検討委員会を設置し、定期的に内部研修を行い、虐待についての知識と意識の再確認。虐待に繋がらないよう、ストレスケアの研修も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している方がいたが、制度に関する研修は行っていない。管理者がある程度理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、不安・疑問点の解消を図りながら、理解が得られるよう時間を掛け説明している。改定時には、電話や文章で説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見等はケアを通して確認している。家族からは、面会時や必要時電話で意見等を聞いている。また、苦情等相談窓口は、重要事項説明書に道・市の窓口を記載。	面会時や電話、運営推進会議の時に意見や要望を聞き取り「家族記録」に記入している。毎月写真入りの「ほほえみ」通信を発行し、事業所全体と個別の様子を家族に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議の他、日頃より意見を話す機会があり、管理者とも話しやすい環境である。すぐに話し合い出来なくても、連絡ノートを活用し意見を募っている。	会議や普段の業務の中で職員の意見や要望を聞き取り、ケアや運営に反映させている。利用者への対応や業務改善などにも職員意見が活かされている。管理者と個別に話す機会もあり、職員は何でも話せる環境であると感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や急な用事、体調不良時など状況に合わせたシフトへの配慮がある。常勤者が事務仕事をする日をシフトに組み込み、残業にならないようにしている。介護ロボット(見守り支援)の導入により、職員の負担軽減となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はほぼ毎月行われている。外部研修はオンラインで参加している。研修記録を通して全職員へ周知し、学びの機会になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症予防中の為、積極的な交流は行っていない。外部研修参加時に、他施設の事例などを聞く機会があった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(壱番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期は特にコミュニケーションを十分にとり、本人との会話や行動から気持ちを汲み取り、得られた情報は記録を残す事で職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で、家族の思いや家族にしかわからない本人の思い、入居に至るまでの経緯等を聞いている。不安・要望が話しやすいよう傾聴し、信頼関係を築く第一歩としている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の困りごとを見極め、その時に適したサービスが受けられるよう、相談・助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の性格・好み、出来る事・出来ない事を把握し、作業等提供している。作業時は、職員も一緒に行ったり、感謝の言葉を掛けたりする事で、家族のような雰囲気の中で作業している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は感染予防中の為制限はあるが、本人と家族がコミュニケーションを取れる機会を設けている。毎月、日常の様子を文章と写真で作成した通信を送付し、状態変化などの必要時は都度連絡を取り、情報の共有をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防中だが、家族や家族以外の人とも面会できるよう、窓越し面会やオンライン面会を実施。感染者数が落ち着いた時は直接面会を行い、利用者の笑顔も見られる。	近所に住んでいた方や昔からの友人が訪ねて来る利用者もいる。携帯電話で、家族や友人と話をしている方もいる。受診の帰りに職員と一緒に自宅を見て来たり、ドライブで馴染みの店の前を通ることもある。家族と法事に出かけた利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握し座席を決め、一緒に作業や余暇等を行い、孤立しないよう職員が間に入っている。関係性に变化等が見られたら、都度席替えを行っている。作業を行う際、困難な事も利用者同士助け合いながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(巻番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去一年で相談等受けていないが、体制は整っている。退去された家族の方が来館され、野菜や不要な衣類(ウエス用)等もってきてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を把握する為、日常の会話や様子を記録に残し、職員間で情報共有している。表出が難しい方は、過去の生活の様子や本人の表情などから汲み取る様にしている。	会話や表情、今までの関わりの経験などから思いや意向を把握している。3か月ごとに作成しているアセスメントシートに、得意なことや興味のあることを記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルを用意し、入居時に聴き取った情報など保管している。事務所の棚で管理している為、職員がいつでも確認出来る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・水分量、排泄、バイタルの記録で健康状態を把握。個人記録で一日の過ごし方や心身の状態、ケアプランの評価を記録。記録を確認する事で、新たな発見なども出来ている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの意向を聞き出し、療法士とのアセスメントで意見をいただき、モニタリング、ミニカンファレンスで職員が意見を出し合い、職員・計画作成担当者が共同して作成。状態変化時は、設定期間に限らず、最新の状態に合わせたプランに作り直している。	利用者の担当職員を中心に、全職員で短期目標にそって毎月モニタリングを行い、3か月ごとに介護計画書(2)を作成している。利用者の変化に応じて「具体的な計画内容」項目や介護計画を随時変更している。個人記録は、介護計画を意識しながら記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアプランを綴り、毎日ケアの実践評価を記録している。早急な対応が必要な時は連絡ノートを活用し、職員間の情報格差をなくし、モニタリング時に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人の為、春光台クリニックと情報共有が密に行っており、急変時には即時に医師看護師に相談することが出来る。施設内に医療物品等の備えがある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域SOSネットワークに加入している為、行方不明時は捜査協力が得られる体制がある。公民館の図書館利用、公園への散歩、隣接の保育園の行事見学等、資源豊富な地域で楽しみながら生活している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行っており、ほとんどの家族が、緊急時迅速に対応できる母体のクリニックへ変更している。専門医へも本人・家族の希望に応じ受診している。	全利用者が、職員と協力医療機関を定期受診している。通院に家族が同行することもあるが、専門医もほとんど職員が受診支援し、利用者の健康状態を詳しく伝えている。受診状況は「受診記録」に個別に記入している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(巻番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日業務日誌を春光台クリニックにFAXし、必要時は、受診や対応等の指示がある。緊急性がないものは看護記録に記入し、週一回の看護師来館時に情報共有している。緊急性がある時は、直ちに電話連絡し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療機関へ情報提供書を提出。入院中も状態確認を定期的に行い、早期退院に向けて入院先のソーシャルワーカーや看護師と情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、ホームでの事例を交えながら説明し、本人家族の意向を確認。看取りケアに入る際も、再度意向を確認し、ホームで出来る事や加算の説明をし同意を得ている。本人家族の思いに添って過ごせるよう、看取りケアについての研修を行っている。	利用開始時に「重度化した場合における指針・看取り介護に関する指針」にそって、事業所の方針を説明している。家族の希望に応じて、主治医の判断の下に看取りを行うこともある。年1回看取り研修を実施し、看取りを行った経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置。急変時対応マニュアルや事故発生時のマニュアルがあり、いつでも確認出来る。今年度は、消防職員による救命講習を職員全員が受け、再確認した。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、避難・消火・通報・地震想定の実施したり、BCPの内容確認を行っている。グループラインにより、迅速に緊急時の連絡ができ、地域に住んでいる職員やその家族がすぐに来れる体制ができています。	防災会社の立ち会いの下、年2回昼夜の火災を想定した避難訓練を行っている。災害時の個別対応についても話し合っている。感染症の流行により、近年は地域住民が参加する避難訓練は実施していない。職員の救命講習を定期的に行っている。	感染症の収束状況を見ながら地域住民の協力を得た避難訓練を実施し、地域との協力体制を再確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報事務所で管理。不適切なケアで人格を傷つけないよう研修を行い、慣れ合いにならない様、声掛けの仕方を見直している。ちゃん付けで呼んで欲しいと希望の入居者には、ケアプランに載せ対応している。	呼びかけは基本的に「さん」付けで、利用者や家族の希望を聞き、より親しみやすい呼びかけを行う場合もある。個人ファイルは利用者の見えない場所に保管し、会議などで利用者の話をする際はプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲物や入浴時間の選択肢を用意したり、行事や誕生日に食べたい物を聞いたり、自己決定が困難な方は今までの好みを優先する等、職員からの押し付けにならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や、体調をさせない方でも表情などから状態を把握し、個々の体力に合わせた一日の過ごし方を考慮している。起きれない時は無理に起こさず休んでいただき、食事や入浴の時間をずらしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを大切にしながら、清潔感や季節感のある服装が出来るよう、必要時衣類の調整の声掛けを行っている。鏡の前で髪を梳かしたり、髭を剃る等の声掛け介助を行っている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(巻番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で一緒に収穫を行い、どう調理して食べるかなど会話で楽しみ、季節の食材を生かした食事を提供している。おはぎやお節、外でジンギスカンをする等、季節ごとの行事食も取り入れている。	家庭的な献立であり、各ユニットに調理担当者を配置している。利用者は調理や後片付けを手伝い、職員も同じ食事を取っている。時には出前を取ったり、事業所の畑の野菜も活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や摂取量・活動量を記録し、それに合わせ、食事量を調整。形態も個々の状態に合わせて、自力摂取できるように食器や盛り方を変えている。嚥下状態に合わせた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし、個々に合った口腔ケア用品を使用して口腔ケアを実施。自身で行える方は、磨き残しの介助をしている。定期的な義歯調整やオーラルケア、必要時に、歯科訪問診療を受け、歯科から助言・指導も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況が把握出来るよう、排泄チェック表を活用して職員で情報共有し、排泄パターンを見ながらトイレ誘導・声掛け・介助を行っている。個々に合わせたオムツ類を使用できるよう都度検討している。	半分ほどの利用者が自力でトイレでの排泄ができています。チェック表でパターンを把握し、その人の性格を見ながらジェスチャーなども交えて声かけや誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事などで乳製品や繊維質の物を取り入れたり、日々運動する事で自然な排便を目指しているが、困難な時は下剤での調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の疲労具合や、皮膚疾患を考慮しながら、通常の頻度にとらわれず、個々の状態に合わせた入浴回数(週1~3)としている。一対一の為、職員と会話を楽しむ時間にもなっている。	毎日、午前午後とも入浴可能で各利用者が週1~3回の入浴を行っている。一人ひとりお湯を取り換え、希望を聞いて入浴剤も使用している。同性介助や湯温の調節なども希望に合わせ、快適に入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適に休めるよう居室内の温度管理をし、夜間以外でも毎食後に休息の時間をとっている。夜間の巡回で目覚めてしまう方には、見守り機器を活用し、必要最低限の訪室にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のお薬ファイルがあり、いつでも確認ができる。セット時や内服の際に氏名などを読み上げ、確実に飲み込んだか口腔内を確認したり、携わる職員を変える事で何重にもチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に収集した個々の生活歴等の情報を把握し、過去に行っていた事や、今できる事が役割になるよう、作業を提供。読書好きの方が定期的に図書館へ本を借りに行ったり、パズル好きの方が自由に楽しめるよう環境整備した。季節ごとの工作は、作る楽しみや達成感があり、飾る事で喜びにもなっている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(巻番館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防中の為、近所への散歩、ドライブ、屋外での食事やおやつ等、外気に触れる事で気分転換になっている。毎回希望に沿う事は難しいが、買物の訴えあれば、移動販売車に来てもらい、お菓子や果物など好みの物を購入している。	日常的に庭先に出たり近くの公園に散歩に出かけている。事業所周辺を掃除する利用者もいる。通院での外出もあり、保育園の運動会や地域のお祭りの見物、図書館への外出、花見などにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しい事もあり、事務所管理している。本人家族の希望で、少額を所持している方もいる。感染症予防中の為頻度は少ないが、買物に出掛けた際は、本人が支払いできるよう見守りサポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話が利用可能で、家族と電話し会話を楽しんでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてクーラー・加湿器・暖房等で調整している。好きな時に外の景色を楽しめるよう窓辺にソファを用意したり、車椅子の方でも気兼ねなく見に行けるようスペースを確保している。カレンダーや日めくりを設置したり、季節の工作や装飾で季節感を感じられるようにしている。	中庭を囲むように平屋建てで2ユニットがあり、木を基調とした温かみのある建物である。居間兼食堂は広く、複数のソファやテーブルを配置し、好きな場所で過ごせるようにしている。観葉植物があり遊び道具なども用意されている。壁には日めくりカレンダーや季節の装飾を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格を把握し、気の合う者同士で会話や作業を楽しめるような席の配置にしている。隣ユニットの方と仲が良い方は、玄関のベンチがゆっくり会話できる空間となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや本棚、馴染みある家具を安全面に配慮しながら設置したり、家族との写真や家族からのプレゼントを飾るなど、本人が落ち着いて過ごせる空間となっている。	居室には備え付けのクローゼットがあり、壁に温湿度計を設置している。利用者は机や椅子、テレビ、収納家具、棚など好みの家具を持ち込んでいる。ぬいぐるみや人形を飾る方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整頓が難しい方にはクローゼット等に貼紙をする、起き上がりが難しい方には手すりを設置する、リビングや廊下は歩行器や車椅子の方が一人でも十分に通れる様に動線を確保している、等、出来る事を継続して行えるような環境を整えている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901597		
法人名	医療法人社団 春光台クリニック		
事業所名	春光台クリニック グループホーム 貳番館		
所在地	北海道旭川市春光台3条3丁目5番32号		
自己評価作成日	令和6年9月27日	評価結果市町村受理日	令和6年11月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&Jigvsvocd=0172901597-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気な職員が多く、理念にある「笑いある生活」を目標に、明るい雰囲気の中、入居者も笑顔で過ごしている。 ・職員と入居者が、「共に生活する人」のような信頼関係を築いており、入居者は自由に喜怒哀楽を表出している。 ・母体が医療機関の為、定期的な健康管理や、緊急時の相談、受診に繋げやすい。 ・近隣が公園や公民館(図書館)、保育園など地域資源に恵まれており、感染症予防中でも、散歩や図書館の利用が気軽にできる。 ・感染症予防中でも、対策しながら毎月行事を開催。季節感を感じられるようバスで紅葉や桜を見に行ったり、行事食は喜んでもらえるようなメニューを考え手作りしたり、職員による余興(職員一座がある)が好評。 ・職員同士のコミュニケーションも取れており、意見交換もしっかりできている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い作成した理念は、いつでも見れる場所に掲示し、共有、確認できている。理念に基づき、ゆったりとした雰囲気の中、明るく笑顔の絶えない毎日を提供している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症予防の為、日常的な交流は難しいが、図書館を利用したり、ホーム前の道路の清掃や保育園の運動会の見学等行い、地域との繋がりを持つようになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の通信を、プライバシーに配慮したものに変え、母体のクリニックに掲示。グループホームでの生活や取り組みを写真と文章で紹介し、認知症を発症しても地域で暮らしている様子を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常は地域の方や家族に呼びかけ会議を開催しているが、感染症予防の為、電話で家族や地域の方から意見を頂き、書面開催している。議事録は、会議参加者・家族に郵送し、施設玄関に掲示している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点や不明点があればその都度担当者に連絡をとり確認し、記録を残している。運営推進会議に市職員が参加し、議事録等必要書類を提出している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修を行っており、ベッド柵を設置する際の注意事項や声掛けの仕方(言葉による拘束)等、ケアの中で行われていないか再確認している。転倒リスクのある方が「起きたい」と思った時にすぐに対応できるよう必要性を検討し家族に説明した上でセンサーを設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止検討委員会を設置し、定期的に内部研修を行い、虐待についての知識と意識の再確認。虐待に繋がらないよう、ストレスケアの研修も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要性の高い方がおらず、制度に対する研修を行っていない。管理者が参加した外部研修の記録を通して、自分の知識として取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間を使い説明し、疑問や不安点を確認・解消し、入居前の不安感の軽減に努めている。改定時は、都度電話や文章で説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見等はケアを通して確認している。家族からは、面会時や必要時は電話で意見等を聞いている。また、苦情等相談窓口は、重要事項説明書に道・市の窓口を記載。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議、連絡ノートやユニット毎の会議等、意見のやりとりが都度できており、管理者にも意見を伝えやすい環境でもある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や急な用事、体調不良時など状況に合わせたシフトへの配慮がある。常勤者が事務仕事をする日をシフトに組み込み、残業にならないようにしている。介護ロボット(見守り支援)の導入により、職員の負担軽減となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はほぼ毎月行われている。外部研修はオンラインで参加している。研修記録を通して全職員へ周知し、学びの機会になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症予防中の為、他施設との交流はできていない。外部研修(オンライン)で、他施設の事例を聞くなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期は特にコミュニケーションを十分にとり、本人の気持ちを聞くなどし、得られた情報はノート等で共有し、不安にさせないよう関係作りに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で、家族の思いや家族にしかわからない本人の思い、入居に至るまでの経緯等を聞いている。家族の意向もケアプランに記載し、日々の様子等情報交換しながら関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の困っている事を見極めて、その時に適したサービスが受けられるように、相談や助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の得意な事や好きな事等を探り、作業等提供している。その際一緒に行ったり、感謝の言葉を掛けたりする事で、家族のような雰囲気の中で作業している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は感染予防中の為制限はあるが、職員が間に入り、コミュニケーションがとれるようにしている。毎月、日常の様子を文章と写真で作成した通信を送付したり、状態変化などの必要時は都度連絡を取り、情報の共有をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防中だが、家族や家族以外の人とも面会できるよう、窓越し面会、オンライン面会を実施。感染者が落ち着いた時は直接面会が出来るようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、隔たりや孤立がないよう職員が間に入り、全員で楽しめるようなレクリエーションや行事等を行っている。利用者同士作業を行うことで、互いに聞いたり教えたりする関係性が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去一年で相談等受けていないが、体制は整っている。退去された家族の方が来館され、野菜や不要な衣類(ウエス用)等もってきてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を把握する為、日常の会話や様子を記録に残し、職員間で情報共有している。困難な場合もある為、入居時に過去の生活についての書類を家族に記入してもらっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から聞き取りした情報を個人のファイルにまとめ、いつでも閲覧できる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・水分量、排泄、バイタルの記録や、個人記録(睡眠等の一日の様子やケアプランの評価)を毎日記入している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの意向を聞き出し、療法士とのアセスメントで意見をいただき、モニタリング、ミニカンファレンスで職員が意見を出し合い、職員・計画作成担当者が共同して作成。状態変化時は、設定期間に限らず、最新の状態に合わせたプランに作り直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアプランを綴り、毎日実践評価している。個人記録や連絡ノートを共有し、職員間の情報格差をなくし、モニタリング時に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人の為、春光台クリニックと情報共有が密に行っており、必要時に医師・看護師に相談することが出来る。法人所有の送迎バスを利用して、桜や紅葉見学のドライブに出かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館の図書館利用、公園への散歩、隣接の保育園の行事見学等、資源豊富な地域で楽しみながら生活している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行っており、ほとんどの家族が、緊急時迅速に対応できる母体のクリニックへ変更している。専門医へも本人・家族の希望に応じ受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝業務日誌を春光台クリニックへFAXし、看護師が確認。必要時は、受診や対応等の指示がある。同法人の為に気軽に相談でき、適切な医療に繋がっている。週一回の看護師来館時にも、情報共有できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療機関へ情報提供書を提出。入院中も状態確認を定期的に行い、早期退院に向けて入院先のソーシャルワーカーや看護師と情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、ホームでの事例を交えながら説明し、本人家族の意向を確認。看取りケアに入る際も、再度意向を確認し、ホームで出来る事や加算の説明をし同意を得ている。本人家族の思いに添って過ごせるよう、看取りケアについての研修を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルは事務所に掲示し、AEDも設置している。消防署職員による救命講習を受けた。事故発生時のマニュアルもあり、都度確認できる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、避難・消火・通報・地震想定の実施したり、BCPの内容確認を行っている。グループラインにより、迅速に緊急時の連絡ができ、地域に住んでいる職員やその家族がすぐに来れる体制ができている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切なケアで人格を傷つけないよう研修を行い、慣れ合いにならない様、声掛け仕方を見直している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲物や入浴時間の選択肢を用意したり、行事や誕生日に食べたい物を聞いたり、自己決定が困難な方は今までの好みを優先する等、職員からの押し付けにならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	眠気が強かったり、起きたくない等の意向が見られた時は、無理に起こそうとせず休んで頂き、食事や入浴の時間をずらす等、その方のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の時におしゃれを楽しんでもらえるように職員も身だしなみを整えて刺激になれるようにしている。訪問美容で好みのカットや毛染めをしている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な食材を取り入れたり、季節ごとの行事食を提供。食べる事以外でも楽しむ事ができるよう、畑の野菜の収穫や皮むき、食に関する思い出話をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や摂取量・活動量を記録し、それに合わせ、食事量を調整。形態も個々の状態に合わせ、自力摂取できるように食器や盛り方を変えている。水分摂取を拒否する方には提供回数を増やしたり、容器の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし、個々に合った口腔ケア用品を使用して口腔ケアを実施。定期的に義歯調整やオーラルケアを歯科訪問診療を受け、歯科から助言・指導も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、失敗を減らせるよう時間でのトイレ誘導、声掛け、介助を行っている。オムツ類は、個々に合わせたあて方や使用ができるよう、試しながら検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中に野菜や乳製品を取り入れたり、歩行運動やストレッチなどの運動をする事で、自然な排便を目指しているが、困難な場合は下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	疲れやすい方には短時間浴にしたり入浴後に休む時間をとったり、希望する方には好みの入浴剤を使用しリラックスしていただいたり、と、個々の状態や希望を把握し対応している。一対一の為、職員と会話を楽しむ時間にもなっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自室で休める環境であり、自由に休息できる。夜間に良眠出来るよう、日中の作業や運動も充実させている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬や頓服で服薬している薬の情報は、いつでも確認が出来る様、ファイルに保管されている。セット時や内服の際に氏名などを読み上げ、確実に飲み込んだか口腔内を確認したり、携わる職員を変える事で何重にもチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に収集した情報を職員は確認し、個々の得意な事を作業にしたり、歌が好きな方と歌番組を見たりしている。コーヒー好きの方は、豆を引いて飲む時間が楽しみごととなっている。		

春光台クリニック グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(式番館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防中の為、近所への散歩、ドライブ、屋外での食事やおやつ等、外気に触れる事で気分転換になっている。毎回希望に沿う事は難しいが、買物の訴えあれば、移動販売車に来てもらい、お菓子や果物など好みの物を購入している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しい事もあり、事務所管理している。本人家族の希望で、少額を所持している方もいる。感染症予防中の為頻度は少ないが、買物に出掛けた際は、本人が支払いできるよう見守りサポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し、自由に家族や親しい友人と電話で会話を楽しんでいる。施設の電話の利用も可能である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてクーラー・加湿器・暖房等で調整している。テレビ前にソファを置き、お喋りを楽しんだりテレビをゆっくり観る事ができる空間作りをしている。季節を感じられる様、季節にあった作品を作成したり、造花などで飾り付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じテーブルには、一緒にいる事で穏やかに過ごせる関係に配慮している。テレビ前のソファでは、気の合う人同士で過ごしたり、窓側にマッサージチェアを置き、一人の時間を楽しめるよう自由に使用できる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・家族の写真やテレビを置き、それぞれが動きやすい動線になるようにしている。居心地よいのか、自室でゆっくり過ごしている様子がある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の入り口に表札を設置し、トイレもわかりやすいよう表示を行っている。リビングや廊下は歩行器や車椅子の方が一人でも十分に通れる様に動線を確保している。		

目標達成計画

事業所名 春光台クリニック グループホーム

作成日：令和 6年 10月 30日

市町村受理日：令和 6年 11月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域住民の協力を得た避難訓練を実施し、緊急時の地域との協力体制を再確認する必要がある。 感染症により地域の人を巻き込んだ訓練の実施は難しい。	感染症が落ち着いた際は、地域に住む職員やその家族、入居者家族などが参加した避難訓練の実施	* 避難訓練時に、感染症が落ち着いていたら地域に住む職員その家族、入居者家族に参加募集を掛ける * 法人職員(クリニック職員、デイケア職員)の来館は、現状でも可能なので、避難訓練時に見学・参加	2年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。